

学術研究論文 外国学術誌掲載 の件

1. 概 要 (添付 記事資料: 次頁から)

研究論文(フル論文) 題名 (和訳) 「**瞑想者のキュウリへの非接触効果**」

ネット掲載外国誌名 **International Journal of Physical Sciences**

(和訳) 国際物理科学誌

8巻15号 647-651頁 (5頁分)

2013年4月23日号 (しかし、遅れて、日本時間4月26日朝5時までに掲載された。)

掲載サイト Academic Journals: <http://www.academicjournals.org/journals.htm>

掲載誌発行表 <http://www.academicjournals.org/ijps/contents/2013content.htm>

8巻15号 目次 <http://www.academicjournals.org/ijps/contents/2013cont/23Apr.htm>

掲載論文 <http://www.academicjournals.org/ijps/PDF/pdf2013/23Apr/Takagi%20et%20al.pdf>

食用キュウリを測定試料として使った非接触実験で、ピラミッド型構造中の瞑想者が「居る時」と「居ない時」の間に、キュウリが発生するガス濃度に、大きな差(約20%)が存在していることを、科学実験で非常に高い統計精度で立証した。この結果は、既存の科学理論で説明できなく、今後の科学に新天地を切り開く可能性が高い。

1. この実験結果が、偶然に得られる確率は 3.31×10^{-10} (100億分の4以下)であり、覆る事はまずない。
2. 科学測定で、不思議な未知な現象の存在を、非常に高い統計精度で立証した、画期的な研究成果である。
3. このような研究成果が、外国物理科学学術誌に掲載されることは、非常に稀である。

2. 記事掲載を 4月26日金曜に解禁します。

日本時間4月25日夜には、未だ掲載されていなかったが、26日朝5時には掲載されていた。

記事は正確を期すため、出来れば、校正させてください。

3. 情報発信者 下行: ご質問などは 下行 への メールか携帯にて: 山本幹男 直通 nsnpoiri@gmail.com , 090-9232-9542 , Fax 043-255-9143

特定非営利活動法人 国際総合研究機構 (NPO-IRI) 理事長、情報研究センター長、
生体計測研究所長、など iri@iri.org 電話 043-2555-5481 Fax 043-255-5482

山本 幹男 博士(医学)・博士(工学) は、元 科学技術庁 放射線医学総合研究所(略称 NIRS)

(在 千葉市稲毛区、所管が文部科学省に変わり、現在は 独立行政法人)研究室長・上席研究員などを歴任し、34年間国家公務員研究者とし勤務研究した。2005年の定年退官時に研究室を現在のNPO-IRI(在 千葉市稲毛区)に移して、NIRS 在職中に始めた人間の「潜在能力の科学」などの研究とこの分野の推進を継続中。

NIRS 在職中の1995年から人間の「潜在能力の科学」に関する研究を8年間国家予算を獲得して、世界最大規模の体制で実施し、「気功に暗示以外の何かが存在していること」などを科学的に立証し、多くの大新聞にも掲載された。

ワシントン大学(在セントルイス市)で2年間研究。元 東北大学非常勤講師、千葉大学大学院客員助教授、東邦大学客員教授、など併任歴任。

論文・発表等 500件以上、特許(有効期限切れ含む) 10件以上、科学技術庁長官賞など、多数受賞。

この分野の国際生命情報科学会(略称 ISLIS)を創立、理事長(元会長)・編集委員長。

超党派 国会議員連盟「人間サイエンスの会」(略称 NS、<http://NPO-IRI.org> (会長 山本有二 衆議、予算委員長、元金融大臣・再チャレンジ大臣、等、幹事長 下村博文 衆議 文部科学大臣、元内閣官房副長官、等、事務局長 宮下一郎 衆議、自民党産業経済部会長、元財務大臣政務官、等)第1回講師ならびに世話人代表として、16年前の設立から151回の会合(人間の「潜在能力」と「地球の未来」を研究・討論・推進)の開催を世話し継続中。この間、当議連は、首相、大臣、副大臣、大臣政務官など多数を輩出。

著書 監修 山本幹男ほか、「潜在能力の科学」、発行 国際生命情報科学会(略称 ISLIS)、他
詳細 [Wikipedia「山本幹男」](#)

記事資料

掲載予定論文： 近じかの掲載は決定しています

研究論文(フル論文) 題名 **Meditator's non-contact effect on cucumbers**

(題名和訳 **瞑想者のキュウリへの非接触効果**)

著者 高木 治、坂本 政道、小久保 秀之、世一 秀雄、河野 貴美子、山本 幹男

掲載予定外国誌名 **International Journal of Physical Sciences**

(和訳 **国際物理科学誌**)

詳細p1. 上部参照

論文の内容：

食用のキュウリを輪切りにした実験試料をペトリ皿（シャーレ）に入れ蓋をしたものに、瞑想者が全く手を触れないで、ピラミッド型構造中の瞑想者が実験場所に「居る時」と「居ない時」（この時は、実験場所から常に 5km 以上離れていた）の2つの状態での、きゅうりが発生するガスの濃度の違いのみを純粹に比較する厳密な実験系を組み、多数回実験をした測定結果に対し、他の原因を全て打ち消す解析をした結果、これら2つの状態間に大きな違い(ガス濃度では約 20%)の存在を、科学的に充分統計精度高く立証したものである。

この結果は、既存の科学理論で説明できなく、今後の科学に新天地を切り開く可能性が高い。

1. この実験結果が、偶然に得られる確率は 3.31×10^{-10} (100 億分の 4 以下)であり、覆る事はまずない。
2. 科学測定で、不思議な未知な現象の存在を、非常に高い統計精度で立証した、画期的な研究成果である。
3. このような研究成果が、外国学術誌に掲載されることは、非常に稀である。
4. Hypertech Project (ハイパーテック プロジェクト) の初めての論文成果発表である。

著者： 高木 治、坂本 政道、小久保 秀之、世一 秀雄、河野 貴美子、山本 幹男
著者6名の内 坂本を除く5名は、特定非営利活動法人 国際総合研究機構 (略称 NPO-IRI)
(理事長 山本 幹男 博士(医学)、博士(工学)、在 千葉県千葉市稲毛区) の研究者。

筆頭著者の 高木 治 (たかぎ おさむ) 博士(理学) は、NPO-IRI 主任研究員。元 埼玉短期大学 情報メディア学科 准教授

坂本 政道 (さかもと まさみち) 応用科学修士 は、株式会社アクアヴィジョン・アカデミー・アカデミー 代表取締役 (在 千葉県成田市) で、この研究の Hypertech Project (ハイパーテック プロジェクト) 共同研究 (アクアヴィジョン・アカデミーと NPO-IRI との) のリーダーであり、この実験の瞑想者でもある。元 ソニーの研究者。モンロー研究所 公式認定レジデンシャル・ファシリテーター

で、ヘミシンクの指導や25冊程の著者。

小久保 秀之 理学士 NPO-IRI 研究部長。キュウリ測定法の主たる創始研究者。

世一 秀雄 工学修士 NPO-IRI 技術部長・主任研究員

河野 貴美子 博士（工学）NPO-IRI 副理事長、生体計測研究所副所長

山本 幹男 博士（医学）、博士（工学）NPO-IRI 理事長、情報研究センター長、生体計測研究所所長 詳細 1 ページ下部参照。

内容紹介例 1 :

Hypertech Project (ハイパーテック プロジェクト) 共同研究 (プロジェクト・リーダー 坂本 政道 応用科学修士 (株式会社アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役 (在 千葉県成田市)) の

6年半の科学研究の初の論文成果の一つが、国際学術誌 International Journal of Physical Sciences (和訳)国際物理科学誌、8巻15号に掲載された。

この Hypertech Project は、株式会社アクアヴィジョン・アカデミーと特定非営利活動法人国際総合研究機構(略称 NPO-IRI、在 千葉市稲毛区、理事長 山本 幹男 博士(医学)、博士(工学))との2007年10月からの共同研究の初の本論文成果であり、NPO-IRIに於いて、その科学研究者5名と共に粘り強く実施された。筆頭著者は高木治 NPO-IRI 主任研究員。

食用のキュウリを輪切りにした実験試料をペトリ皿(シャーレ)に入れ蓋をしたものに、瞑想者が全く手を触れないで、瞑想者が実験場所に「居る時」(この時はピラミッド型の中に上半身が入っていた)と「居ない時」(この時は、実験場所から常に5km以上離れていた)の2つの状態での、きゅうりが発生するガスの濃度の違い(約20%)のみを純粋に比較する厳密な実験系を組み、多数回実験をした測定結果に対し、他の原因を全て打ち消す解析をした結果、これら2つの状態間に大きな違いの存在を、科学的に充分統計精度高く立証したものである。

この結果は、既存の科学理論で説明できなく、今後の科学に新天地を切り開く可能性が高い。

1. この実験結果が、偶然に得られる確率は 3.31×10^{-10} (100億分の4以下)であり、覆る事はまずない。
2. 科学測定で、不思議な未知な現象の存在を、非常に高い統計精度で立証した、画期的な研究成果である。
3. このような研究成果が、外国学術誌に掲載されることは、非常に稀である。
4. Hypertech Project (ハイパーテック プロジェクト) の初めての論文成果発表である。

以上